

インドネシア

ウジュンパンダン港緊急改修事業



新たに建設されたハッタ埠頭

[借款概要]

承諾額/実行額	6,658百万円 / 5,038百万円
借款契約調印	1990年12月
借款契約条件	金利2.5%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1999年12月

[事業概要]

スラウェシ島南部にあるウジュンパンダン港（現マッカサル港）において、老朽化した埠頭に代替する新埠頭及び建物・構内道路等の港湾施設を建設することにより、地域ハブ貿易港としての港湾機能の維持・向上を図るもの。

[評価結果]

新埠頭の完成（1998年）により、本港の年間貨物取扱量は完成前（1996年）の5.3百万トンから2000年には6.3百万トン（目標値は5.0百万トン）へと約1.2倍、そのうち専用取扱施設が完成したコンテナ貨物の取扱量は、約10.8万トンから16.4万トンへと約1.5倍に増加した。入港までの待ち時間も、完成前（1994年）の4.68日から完成後（2000年）には1.24日に減少しており、本事業により、同港の能力、効率性は大きく改善されたと評価される。

本事業完成後、港湾近郊の工業団地への新規工場の建設も見られ、今後とも本港の後背地における工業開発等の経済効果が期待される。

なお、本港の運営・維持管理に関して、これまでのところ実施機関の財務・組織面の能力に問題はないが、今後、貨物量が更に増加するに伴い、コンピュータ化を含めた一層の効率化が必要になるものと考えられる。